

本郷元町エリアの歴史性を体現する重要なシンボル

旧元町小学校・元町公園を本郷元町エリアの歴史性のシンボルに据え、人々が集い賑わう拠点となることによって、地域の歴史的魅力を伝え、「本郷元町ブランド」の醸成へつなげます。敷地や建物単体だけでなく、エリア全体で考える視点が重要です。

実施する理由・背景 歴史性の継承と「本郷元町ブランド」の醸成

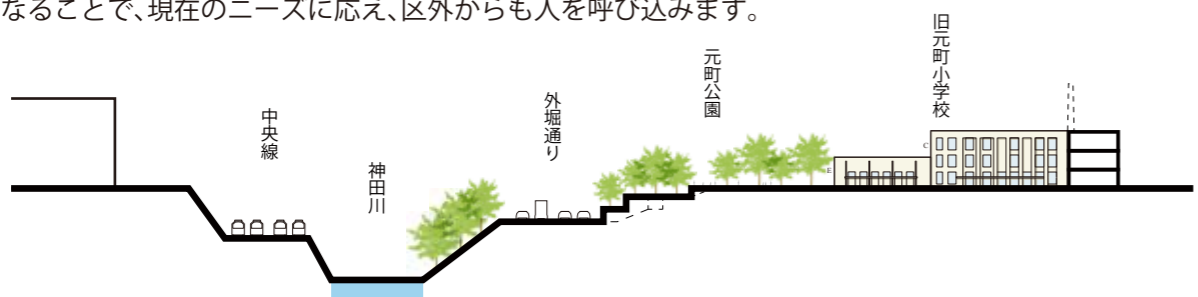
本郷元町エリアには、江戸開府、関東大震災、帝都復興といった歴史の変遷を背景に、この地域ならではの資源が多数存在しています。中でも、旧元町小学校・元町公園は、帝都復興事業でつくられた復興小学校・小公園のうち、ほぼ完全な状態で現存する唯一の事例であり、地域の魅力を語る上でも欠かせない資源です。その魅力を活かし、「本郷元町ブランド」を醸成することで、エリア全体の付加価値の向上や周辺地域の活性化に寄与することができます。

具体的な内容① 景観の保全と空間構成の踏襲

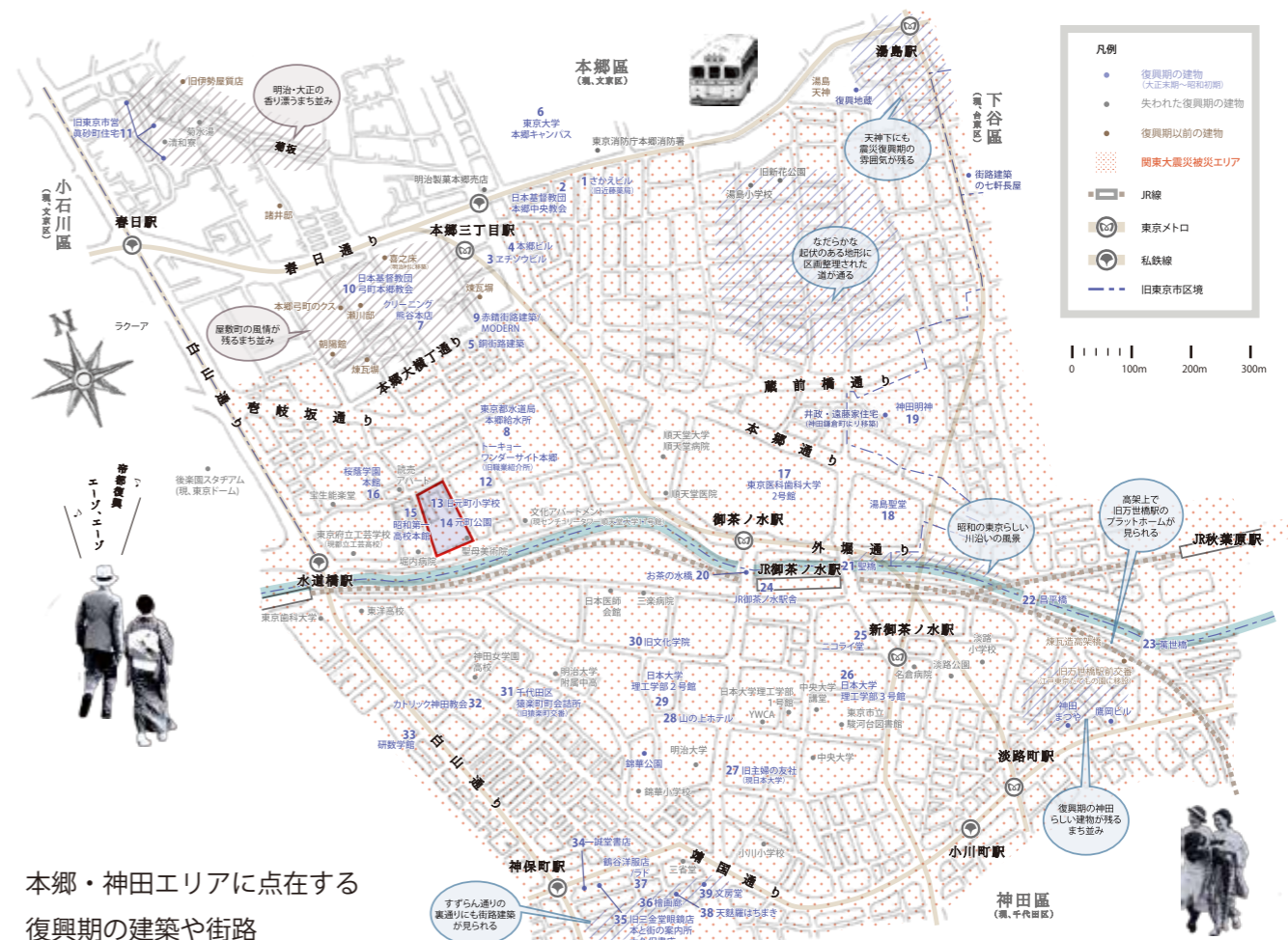
旧元町小学校は、公園と一体的な空間とする意図のもとに、校舎がコの字に配置されました。また元町公園は本郷台地から神田川への斜面地を取り込み、地形や眺望を最大限に活かした設計がされており、緑豊かな神田川沿いの景観にレトロモダンな雰囲気をつくりだしています。この歴史的景観をできる限り保全し、復興小学校・小公園としての設計理念や計画意図が受け継がれるよう、空間構成をできる限り踏襲します。

具体的な内容② まちあるきの拠点となる観光インフォや宿泊施設を

文京区の観光では、文豪ゆかりの地や史跡を散策するまちあるきの人気が高いですが、まちなかを回遊させる仕掛けが少ない、休める場所がないといった課題があげられています。一方、旧元町小学校・元町公園は、1日に10万人以上が利用する水道橋駅から徒歩5分で、東京ドームやラクアが近いなど、集客性のポテンシャルが高い立地です。観光インフォメーションや宿泊施設を設置し、小石川後樂園～湯島聖堂～神田明神を巡る歴史散歩や滞在型観光の拠点となることで、現在のニーズに応え、区外からも人を呼び込みます。



緑豊かな神田川沿いの景観と傾斜状の敷地を活かし計画された旧元町小学校と元町公園



本郷・神田エリアに点在する復興期の建築や街路
—本郷元町エリアはその中核となる



- 復興小学校5つのポイント—
- 1. 安全・避難・耐震**
 - 全ての児童が3分以内に校庭に出られる
 - 従来より広い階段や廊下
 - 2. 衛生・自然換気・健康**
 - 外壁下部から廊下への自然換気
 - 水洗トイレ、セントラルヒーティングを装備
 - 3. 自然採光**
 - 教室は天井が高く、背の高い窓を採用
 - 図画室や屋内体操場は特に採光が重視された
 - 4. モジュールの規格化**
 - 教室8.55m×6.9m
 - 廊下幅2.7m
 - 階段幅4m、24段
 - 階高3.8m
 - 5. ディテールへのこだわり**
 - 全体の標準化により時間をかけて細部を作り込むことが可能に